

## 【随筆】

## 桜も咲いて春たけなわですね

住 吉 尚

(釧路支部)

北獣会誌1月号に「琵琶瀬の水路でゼニガタアザラシを見た!」と書きました。そして先月号では「藻散布の水路でゼニガタアザラシを見た!」と書きました。これらを振り返って見ると、最近アザラシが港や水路のような普段はあまり利用しない場所に入り込んでいると言うことが分かってきました。これはアザラシの餌となる魚がアザラシの住む沿岸部で少なくなったため、危険を冒して狭い水路に入り込んで、カレイやコマイなどを食べる必要に迫られていると見るべきでしょう。どうやら昨年の道東沿岸部での赤潮の影響がこんなところにまで出ているようです。正確に個体数の調査が行われていれば、今年の繁殖成績にも影響が出て来るかもしれませんが、釧路界隈のゼニガタアザラシの個体数調査をしている人がいると言う話が、最近では聞こえてこないのです。この赤潮騒ぎがゼニガタアザラシにどこまで影響が出ているのかは分かりません。そんな中で霧多布岬のラッコは今日ものんびり昼寝をしていました。アザラシよりラッコの方がずっと影響が出そうなものですが、どうなのでしょう?一昨年までは順調に生息数が増えていましたが、その後は減ったような気がします。先日は1頭しか見えませんでした。でもたまにしか見に行かない私の観察では当てになりませんね。

さて札幌では4月23日に桜の開花が宣言されました。なんてのんびりした話をしていますが、一方では網走と白老では高病原性鳥インフルエンザの発生で、とんでもなく大変な思いをした仲間たちがいたことも忘れてはいけません。この場を借りて「ご苦労さんでした!」と申し上げます。この件は、全くの他人事だと思っていたら、釧路市内でもエミューから高病原性鳥インフルエンザが出て、99羽処分し消毒が完了したと27日に発表になりました。関係者にはもう一度「ご苦労さんでした!」と申し上げます。ここ釧路は札幌から遅れること1週間でも桜は開花しません。去年は私の庭にあるチシマザクラが5月5日に開花しました。今年は5月3日に5~6輪咲いて、私的な開花宣言をしたところです。今年の5月5日は天候は良かったのですが、日中でも気温が10℃まで

届かず、寒くて開花が進みませんでした。6日には気温が上がって満開となりました。

ところで、春なので春らしい食べ物と言えば皆さんは何を思い浮かべますか?ギョウジャニンニクには熱的な愛好家いますね。これを採りに行って今年も死んだ人がいるほどです。皆が採ってしまうので、平坦地ではすっかり姿を消して、とんでもない急斜面に生えているギョウジャニンニクを採ろうとして起こる事故のようです。たかが山菜です、命との引き換えは止めましょう。タランボ、コゴミ、ウドも美味しいですね。でも私的にはタケノコなのです。とは言え、今年はまだタケノコを口にしていません。妻に言わせると、買い物に行くたびにあちこちの店を見ているけど見当たらないのだそうです。釧路ではタケノコを食べる習慣がないのでしょうか?あるいは生のタケノコの処理方法が分からないから食べないのでしょうか?いずれにしろ、あまり売れないから仕入れもしないと言うことのようにです。私は道産子ですから採りたてのタケノコなんて食べたことはありません。北海道まで運ばれて来たタケノコは、いくら新鮮と言ってもエグミがあります。私としてはエグミがあるタケノコが好きなのです。一度、博多の人から採りたてのタケノコをすぐ湯がいて、送ってもらったことがあります。これはエグミが全くありませんでした。と言う訳で大変美味しいのですが、私的に物足りないタケノコでした。習慣とは恐ろしいものです。

今年もあちこちで春先からクマ騒ぎですね。札幌の三角山に冬眠穴だ、なんて!私が大学に通っていた頃は、この近くに住んでいたので三角山は私の散歩コースで、三角山から大倉山を通して小さなトンネルの上まで良く歩いたものでした。確か小別沢トンネルと言ったと思いましたが、今でもあるのでしょうか?人の気配がない静かな山で、抱卵中のヨタカを踏みそうになったりはしましたが、クマなんて考えもしませんでした。札幌では今年も早々に北部の住宅街でのクマ騒ぎがありましたね。ここ釧路は札幌ほど田舎ではないからでしょうか?住宅街でクマ騒ぎはよその話だと思っていたのですが、5月3日に私が住む美原のお隣に当たる文苑地区でクマを見たとのニュースが!でも50cmほどの大きさの子グマが2頭と言う目撃情報では、真偽のほどはどうなのでしょう?私の周りではクマは出ないものの、シカは住宅街でも普通に見るようになり、私の家の1軒置いてお隣の庭はチューリップが食べられたので、庭にシカ除けにテープを巻きました。でも、私の家まで来るのにはまだまだ時間がかかるようです。

日本中が春です！そしてゴールデンウィークです。でもこれで新型コロナの感染が拡大すると皆さん警告しています。これでは5月19日の北獣理事会には怖くて出かけられません。そして5月11日までに6月の代議員会の出欠も決めると言います。状況を考えると代議員会を普通に開くことにはならないでしょうね。コロナ禍がいつまで続くのか分かりませんが、こちらはさておき、私的にはタンチョウの今年の繁殖状況が気になります。今のところ大きな洪水が出ていないので、大河川（十勝川、釧路川、風連川など）流域の河川敷で繁殖している個体も今年は上手くいくでしょう。昨年は十勝川水系がほぼ全滅状態でした。十勝管内は今年もタンチョウ保護研究グループが飛行調査を行っているので、繁殖状況は4月中には分ってくるでしでしょう。そして、この調査の調査員からの報告では例年通りだとの情報も。それでは！と、私は釧路から東側の飛行調査が行われない範囲のタンチョウの観察が主です。4月7日に「まだ産卵していない」と書いた、オソベツ川支流のタンチョウは川の中での営巣を止め、左岸側のトラクター道の真ん中に卵を1個産んで抱いていましたが、近づく大変嫌がりますからその後は見に行っていないです。そして同じ7日に、「こんなところで孵化するまで座ってはいられないでしょう」と書いた個体は、1週間後にはもうどこに行ったのか姿が見られませんでした。また、7日にはまだ抱卵していなかった釧路川築堤脇の個体は、16日にはもう抱卵していました。更に国道脇で抱卵しているとの情報があったので行って見たところ、1卵を抱いているのが確認できました。「でもやはりこんな所ではなー！」と思った所で産卵した個体は全部放棄したのか、姿が見えなくなりました。やはり釧路管内ではタンチョウの繁殖個体を収容する環境が飽和状態になっていると言えるほど、個体数が多くなっているということでしょう。5月2日には弟子屈の近くで森に囲まれた小さな湿地で抱卵しているとの情報で見に行きました。確かに抱卵している間は静かで良い環境のように見えました。でもヒナが孵った後、ヒナが育つに十分な餌が確保できるか？には大変疑問がある場所でした。周りはカラマツの人工林が数kmもあるのですから。

さてさて、ここから東の調査は大変なのです。根室管内は全域にタンチョウが住んではいるのですが、ぼつぼつと非常に密度が低いので、走っても走ってもタンチョウの姿が見られません。これは繁殖に適した環境があまり多くはないということを表しているのでしょう。単に抱卵をする場所と言う意味ではたくさんあるのですが、



トラクター道に卵がゴロリ



車から見ていますからこんな風に



デジカメですからこんなことに

十勝に比べると餌環境が大変貧弱で、ヒナを育てるのに難があるからでしょう。そして今般のガソリン価格の高騰です。1回走ると300kmを軽く超えますから私の小遣いもカラカラ状態です。もうひとつ気になっているのはソーラーパネルの大増殖です。牧草地にならない谷地が次々とソーラーパネルに変身しています。これでタンチョウの繁殖適地が次々失われています。あんな谷地

坊主だらけの湿地だから！と言うことで、ソーラー発電業者に売り渡しているのでしょうか？タンチョウ保護の立場からもうひとつ気になる変化が。それは小規模な家族経営の農家がどんどん減っていることです。搾乳農家が搾乳を止め、育成牛だけになり、いつの間にか牛もいなくなります。タンチョウの子育てにはあちこちにあった小規模な堆肥山が重要な餌場となっています。私たちが足輪を付けるために捕獲したヒナが放鳥までの間に糞をすると、できるだけ糞を採集をして何を食べているかの分析をお願いします。糞から出るDNAでは昆虫の仲間が多いと言うことですが、とんでもないものも出ています。トマト、レタス、白菜などです。これは小規模農家の堆肥山に家庭から出る生ごみを捨てていることから来るものでしょう。そしてタンチョウはこんな農家の堆肥山を主な採餌場所にしてしています。こんな堆肥山ほどミミズが多いからでしょう。私の観察ではヒナが食べているもので一番多く見えるのはミミズです。でも大規模な農業法人では農場周りが良く整理されているため、タンチョウの親子が餌を食べに来ることはあまり多くはありません。特に根室管内に多い、大規模な搾乳農場はタンチョウがあまり利用しません。これは堆肥がきれいに処理されていくと、堆肥が高温になり虫が湧くこともないので、良い堆肥がタンチョウには良い餌場にはならないと言うことでしょう。大規模農場でもタンチョウの利用が多いのは肉用牛の農場です。こちらは牛の餌がタンチョウの餌になることと、牛の糞の中に未消化な穀類が出て来るのでこれをタンチョウが食べています。でも規模が大きい農場ほど、一般人の立ち入りを厳しく制限していますから、ほとんど私たちには手が出せません。

さてさて、ウクライナの戦争はいつまで続くのやら。これでは昨年収穫した小麦だけではなく、今年の農作業にも大きな影響があるでしょうから、小麦価格の上昇は数年続くのでしょうか。ロシア産天然ガスや石油から当分は手を引くことになる、西側諸国ではエネルギー価格の上昇は2年や3年では解消しないのでしょうか？こんなことも自動車の電動化にさらに拍車がかかり、日本の自動車メーカーの電動化の遅れで、この世界からも日本が取り残されていきそうです。でも皆さん、悲観することなく、明るく、そして前向きに頑張りましょう。

\*追加です。上記の文を書き上げ、11日に北獣に送ろうとしていました。その前日の10日は釧路獣医師会の監査が午後からありました。午前中はやることもなし。天気は最高。と言うことで別保の森林公園に野鳥でも見ようと出かけました。でもこの日はミソサザイ1羽のみ。



アオダイショウが2匹、食うか食われるか


コマドリの声は最後まで聞こえず。野鳥はさっぱりでした。遊歩道を歩いて行くと道路わきの草やぶがガサガサと音がして、何や丸まったものが転がり落ちてきました。ウンー！よく見ると小型のヘビが2匹絡まって団子状に。種類は2匹ともアオダイショウのようです。交尾にしては小さいヘビだなー！よく見るとしっぽの付け根付近はくっついてはいません。では何のために絡まっているのかな？2匹のヘビの邪魔をしないように、そっと絡まった頭付近をほぐしてみました。すると、少し大きなヘビが小型のヘビの首根っこに噛みついています。なるほど、ヘビがヘビを食べようとしているところに会ったようです。さてその後はどうなったのでしょうか。監査に出席しないわけにはいきません。でもこんな場面に出会うのはもう一生ないでしょうね。残念「後ろ髪を引かれる」とはよく言ったものです。歯ざしりをしながら帰って来ました。

〔海霧の帯  
すべてを隠す白昼夢〕

〔晴と海霧  
トンネルつなく  
街のなみ〕

〔波音も岬も奪ふ海霧の帯〕

〔句題〕 海霧じり



〔室蘭市  
白波瀬  
稔歳〕